

日本の認知症患者数は2012年時点で約462万人。65歳以上の高齢者の7人に1人推計されています。今後、**2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者が5人に1人を占める**見込みになります。高齢になるほど発症率が高くなるといわれる認知症。高齢化の進展により認知症の方は増加すると予想されています。

認知症は誰にでも起こりうる病気です。認知症の方やその家族が、地域での生活を安全に穏やかに営むために1人でも多くの方に認知症を知っていただくことが必要です。**認知症の人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることが出来る社会の実現のために**多くの方にサポーター(=応援者)となっていていただくことを目指しています。

### ★ 認知症サポーターの人数 ★

	総人口	65歳以上人口	高齢化率	サポーター数
全国	128,438,348	31,720,621	24.7%	5,721,485
群馬県	2,019,687	512,387	25.4%	85,372
安中市	61,721	18,173	29.4%	1,600

平成27年3月31日現在

### ☆ 認知症の方に関わる人の心がまえは、さりげなく自然に、が一番の支援 ☆

誰でも自分や家族が認知症になる可能性があります。認知症の人がいるのではなく、その人が認知症という病気になっただけです。これから心のバリアフリー社会をつくるために、**認知症という障害のある方の理解者、さりげなく援助できる「人間杖」が多く存在することが重要**となってきます。

《認知症の人への対応の心得》 ①おどろかせない ②急がせない ③自尊心を傷つけない

\*具体的な対応の7つのポイント\*

- ① まずは見守る ② 余裕をもって対応 ③ 声をかけるときは1人で ④ 後ろから声をかけない  
 ⑤ 相手に視線を合わせて優しい口調で ⑥ 穏やかに、はっきりした話し方で ⑦ 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

### サポーターの活動・役割は？

認知症サポーターになったからといって、何かをしなければならないということはありません。家族や友人に講座で学んだ知識を伝える、認知症の人や家族の気持ちを理解する、といったことも支援の一つになります。認知症で困っている人や家族に、「何かお困りですか？」と声をかけるだけでも家族は救われた思いがするのです。大切なのは**温かい目で見守り、何が出来るか、手を貸すことはないか、を考える**ことです。

認知症を正しく理解したうえで、

- ① 自分なりにできる簡単なことから始める。
- ② 地域でできること(相互扶助、協力、連携)を探す
- ③ 街づくりを担うリーダーとして活躍する  
 などできることから実践していきましょう。



### 認知症サポーターになるためには

認知症サポーター養成講座(約90分地域や職域団体等で、住民講座ミニ学習会として開催)を受講すると誰でもなることが出来ます。養成講座終了後、認知症の方を支援する意思表示の目印として、プレスレット(オレンジリング)が渡されます。このオレンジリングが連携の印になるような町を目指すことが大切です。

養成講座に興味のある方は、当院スタッフまでご相談下さい。